



衣川 実介

『穴の開いたボール』

『お父さん、このステンレスのボールから、だし汁がこぼれたよ。』妻がそう言って、洗ったボールを見せてくれました。材質表示はありません早速、磁石を取り出して材質を確認します。ピタッとひっつき、『あれ！あれ？』外見ではステンレス鋼のような光沢を持っています。しかし、サビにくいステンレス鋼SUS304ではありません。窓に向けて底をみると、明らかに穴が開いています。虫眼鏡を持ち出し丹念に表面を調べると、点、点と穴の開き始めた痕が見えます。『厚手の器、ステンレスなので安心して使っていた』と妻は言いました。

ステンレス鋼にも色々な種類がありますが、一般の人が判別できるのは大まかに2種類で、磁石につくものと、つかないもの（磁性の有無）です。磁性のあるものは、主な添加元素がクロム（Cr）だけのもので、記号では、SUS430のように、4百番台の数字がつきます。磁性のないものは、主な添加元素がクロム（Cr）とニッケル（Ni）です。記号では、SUS304やSUS316のように、3百番台の数字がつきます。ニッケルが入ることで、耐食・耐熱性が向上しますが、ニッケルを含むため素材は高価です。この、ほとんど磁石につかないSUS304でも、厳しい曲げ加工や溶接した部分は素材が変化し、磁石に反応したりひっついたりします。そして、その部分はサビやすくなります。ちなみに、高価な素材で耐海水性能のある二相系のステンレス鋼は、マンガン（Mn）やモリブデン（Mo）も含み磁石につきますが、家庭用には使われていません。

後日、百貨店の台所用品売り場を歩きました。もちろん、強力な磁石を携えてです。強烈に磁石につく、明らかにSUS304ではない台所用品があります。材質表示のしてある商品のごくわずかです。（SUS304：18-8 Stainless）これらはほとんど磁石につきません。材質表示がない場合でもステンレス鋼と書いてあると、お客様はサビないと思って購入されている方が多いのです。

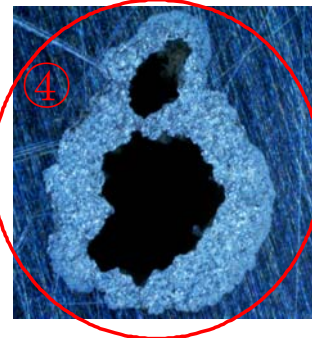
これからステンレス鋼の台所用品を買いに行かれる時には、磁石を持って行かれることをお勧めします。長時間、だし汁を入れておくようなボールなどは磁石につかないものを選んでください。包丁やはさみに使われているステンレス鋼は磁石に強くひっつきます。

①穴の開いたボール
(SUS 430 ?)

②磁石でぶらさげた

③コーナーの穴

④拡大写真
マイクロスコープ



⑤ さび進行中
拡大写真

『鉄のふしぎ博物館』

来て！見て！ふれて！ ふしぎ体感

鉄を見る目が変わりますよ。
ぜひお越しください。



ホームページと電子メールをご利用ください。

URL <http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/>
<http://www.kanamonoya.co.jp/auto/>
<http://www.kanamonoya.co.jp/catena/>
ryou@memenet.or.jp
bike@kanamonoya.co.jp

むらの鍛冶屋®



何でもお気軽にお尋ねください！！